

日本公論

第4号

平成二十一年三月一日発行



特集 日本近代化の功罪

暗中模索コラム集

〈就職体験レポート〉 インターンシップを終えて
〈5期生座談会〉 **就職活動**とは何だったのか

継続企画

建学の祖、山田顕義と
その師、吉田松陰に迫る

5期生 **ダイジェスト**

福田充准教授 連載企画
我が心の師 第4回

江田五月先生

日本大学法学部 福田充研究

日本社会のいたるところで軋みが見え始めている。自民党が支えてきた戦後政治の五五年体制は、二大政党制へと移行する過程においてねじれ国会の前に機能不全に陥っている。もはや日本政治は重要な問題を自力で何も決められなくなった。日本の社会保障を支えてきた年金制度は、社会保険庁という官僚機構による杜撰かつ詐欺的な運営により崩壊寸前である。日本のシステムと言われた日本型経営の特徴であった終身雇用制や年功序列型社会を否定することで、若い世代がつかみ取ったはずの年俸制や実力主義など新自由主義的経済は、サブプライム問題やリーマンショック以降のアメリ力発金融危機によってもろくも崩れ、大量の派遣社員や日雇い労働に依存する経済の実態を露呈した。食品の安全や教育への信頼は崩壊し、モラル、ハザードが止まらない日本社会。

これは、ジャン・フランソワ・リオタールの言う「近代Ⅱモダン」がポストモダン社会へ移行する過程の現象Ⅱ「大きな物語の終焉」なのか、それともウルリッヒ・ベックが言うように近代が果てしなく高度化していく再帰的近代化の過程の表象なのか。近代という社会や時代のあり方をとらえるスキーマは、日本においても家族や企業、学校、または地域社会などのコミュニティが変わるとい形、顕在化し始めている。

日本にとって「近代」とはいかなる時代であるか。歴史的に見るとき、それは日本においては内発的に発生したものではなかった。プレモダンな封建社会を鎖国体制で守ってきた徳川幕府に対して、開国と通商を求めてきたアメリカ合衆国から派遣されたペリー提督と黒船がそのきっかけのひとつであった。歴史的に日本から内発的に発展する日本の社会の進化は、このように常に外部から導入されるシステムによって改革され、しかもそれを日本的に飲み込む形で日本は発展を遂げてきた。平安時代の律令制度は中国から、明治時代の近代的制度はヨーロッパ諸国から、戦後の占領制度はアメリカのGHQから、さらに言えば世界恐慌と第二次大戦を乗り切ったニューディールによる国体の改造であった。戦後の私たち日本人は、憲法も含めてその借り物の体制の上にあぐらをかいて生きている。日本の近代化という現象を考察するために、特に幕末から明治にかけての歴史的連続性にフォーカスをあてるとするならば、その転換点となるのは吉田松陰の「草莽屈起」という思想であり、その師である佐久間象山の影響でもあるが、攘夷思想と矛盾しているようにとも西洋から学ぶという姿勢であった。草莽屈起とは、政治や軍事を武士だけに頼る封建的身分制度を壊し、農民や職人、商人などの民が政治にも軍事にも教育にも幅広く社会に参画することで、「新しい国の形」を模索したものであった。この草莽屈起の理想を軍事面に活かして長州藩に百姓町民からなる奇兵隊を創設したのが弟子の高杉晋作であり、教育面で活かしたことで身分にとらわれず誰でも学べる日本法律学校を創設したのが、この日本大学の学祖の一人と言われる山田顕義である。彼らは皆、吉田松陰の松下村塾で学んだ志士であった。「罪」の部分の部分を挙げて批判することはたやすいが、このように日本において近代化がもたらした「功」の部分は限りなく大きい。

日本大学法学部の福田充ゼミナールのオピニオン誌である『日本公論』第四号の特集テーマは、「日本近代化の功罪」である。現代において、日本という国の形を問うとき、総括せねばならない問題のひとつがこの「日本の近代化」である。

〈特集〉日本近代化の功罪……………六頁

【座談会】日本近代化の功罪 福田ゼミ五期生一同

【評論】 國方大輔／今村清人／伊藤加那／惠爽／三橋稔明／矢沢彰悟／山下将史



〈松陰と顕義〉日本大学創設の原点とは……………三七頁

今村清人／惠爽／山下将史

〈就職体験レポート〉インターンシップを終えて……………四一頁

テレビ東京制作局 國方大輔／読売新聞東京本社 今村清人

〈特別企画〉就職活動とは何だったのか？……………四七頁

【座談会】 就職活動とは何だったのか？ 福田ゼミ五期生一同

【質問コーナー】 就活FM DJマーシーの魂のRadio

【特別付録】 五期生就活戦闘力



〈寄稿企画〉暗中模索コラム集……………六六頁

「ゆずのキセキ」 伊藤加那／「なんで？」 今村清人

「私の宝物」 惠爽／「人が作る、人を動かすエンタテイメント」 國方大輔

「私の小説執筆観」 三橋稔明／「スラムタンク」に見るリーダーシップ論」 矢沢彰悟

「最後の力でのありがとう」 山下将史

〈五期生ダイジェスト〉……………八二頁

入ゼミから卒業までの二年半を振り返る

〈特別寄稿〉福田ゼミとの一年間……………八六頁

二〇〇八年度福田ゼミナール代講 塚本晴二郎教授

〈連載企画〉我が心の師（第四回）……………八八頁

江田五月先生（現参議院議長） 福田充准教授



〈編集後記〉